

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1049 号	氏 名	原 田 真
論文審査担当者	主 査 石塚 修 副 査 駒津 光久・田中 榮司		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>透析患者は心血管病が多く、そのハイリスク患者のスクリーニングに足関節上腕収縮期血圧比 (ABI)が有用な可能性がある。しかし透析患者の心血管病発症を予測する ABI カットオフ値は石灰化を含む強い動脈硬化により非透析患者で用いられる ABI カットオフ値 0.9 より高い可能性があり、理想的なカットオフ値は明らかではない。さらに糖尿病患者も高度な血管石灰化病変を有することが多く ABI カットオフ値が非糖尿病患者より高い可能性があるが、透析患者において糖尿病が ABI 値に与える影響は明らかではない。本論文では信州大学関連透析施設の血液透析患者 110 人を対象に 1) ABI が心血管病発症と関連する因子か、2) 糖尿病の有無で分けられた各群の心血管病発症を予測する ABI カットオフ値、3) 得られたカットオフ値が心血管病発症のハイリスク患者をスクリーニングする目的に有用か、といった点について統計学的に検証し、糖尿病の有無により心血管病発症のハイリスク透析患者をスクリーニングするための ABI カットオフ値を明らかにすることを目的とした。</p> <p>その結果、原田は以下の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1) ABI は心血管病発症と有意に関連する因子である。2) 糖尿病を有する患者の ABI カットオフ値は 1.045、糖尿病のない患者の ABI カットオフ値は 0.960 である。3) 心血管病発症を予測する場合、従来の ABI カットオフ値 0.9 と比較し、今回得られた ABI カットオフ値(糖尿病を有する患者 1.045、有さない患者 0.960)の方が感度、陰性的中率が高くなるため心血管病を予測する ABI カットオフ値としてより有用と考えられる。 <p>これらの結果により透析患者において心血管病発症のハイリスク患者のスクリーニングマーカーとして ABI を使用する場合のカットオフ値は糖尿病を有する場合 1.045、糖尿病のない場合では 0.960 と設定すべきであることが明らかとなった。本研究は心血管病ハイリスク透析患者をスクリーニングするのに有用な ABI カットオフ値を糖尿病の有無によりそれぞれ具体的に数値設定しており、今後透析患者の心血管病診療をしていく上で有益な情報を提示していると考えられる。</p> <p>よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			